

【R 6 年度】重点目標の取組・概要（泉北高速鉄道の延伸に向けた取組[①総合交通戦略事業]

担当課（内線）	交通政策担当（3 1 4 5）	個別目標の方向性	拠点とのアクセス性の向上を図る
重点目標	2 経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の特性に応じた最適な交通手段の検討・構築を進める

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
都市計画道路泉州山手線については、泉州地域の丘陵部における広域幹線道路として、道路交通だけではなく、公共交通の軸としての役割が期待されており、長期的な泉北高速鉄道の延伸に向け、中短期的な公共交通に関する取組が期待されている。延伸は需要が創出され日々のランニングコストが鉄道事業として負担できることが必須（国交省の見解）。中短期的には泉山整備、まちづくりに合わせて基幹公共交通としてのバス路線を導入することで需要の創出を図ることが重要（北大阪急行の延伸を参照）	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・山直東のまちびらきに合わせた新たな交通モードの導入、市内公共交通の再編、スマートモビリティ等の交通結節点機能の充実 事業の進捗に伴い、市域を跨ぐ基幹公共交通と市内（地域内）の公共交通に役割が分かれるため、今後の評価が変わることになるが、将来の都市像の実現のため需要の創出を進めることが重要 【成果に向けての各年度の進め方】 R 5 ～ 8 年度 導入すべき交通モード（需要の創出に繋げるため、まちづくりに合わせて、スマートモビリティの実装を想定）やその実現方策について国、府、沿線自治体、公共交通事業者等と協議、調整（6 3 千円/年） スマートシティ「移動がスムーズなまちづくり」等の取り組み R 9 年度 山直東のまちびらきを見据え、和泉中央駅～山直東間の交通モードと制度設計、それに合わせた、市内公共交通の再編、交通結節点機能の充実等を検討。まちづくりは地域限定の取り組みであり、市域全域を対象とした交通政策として取り組むことが必要 R 1 0 年度 和泉中央駅～山直北間の新たな交通モードの導入、市内公共交通の再編、スマートモビリティ等の交通結節点機能の充実 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 （期間）R 5 ～ 1 0 年度 山直東まちづくりの区画整理事業区域のまちびらきに合わせて事業期間を設定 （対象者）岸和田市 （手法）未定

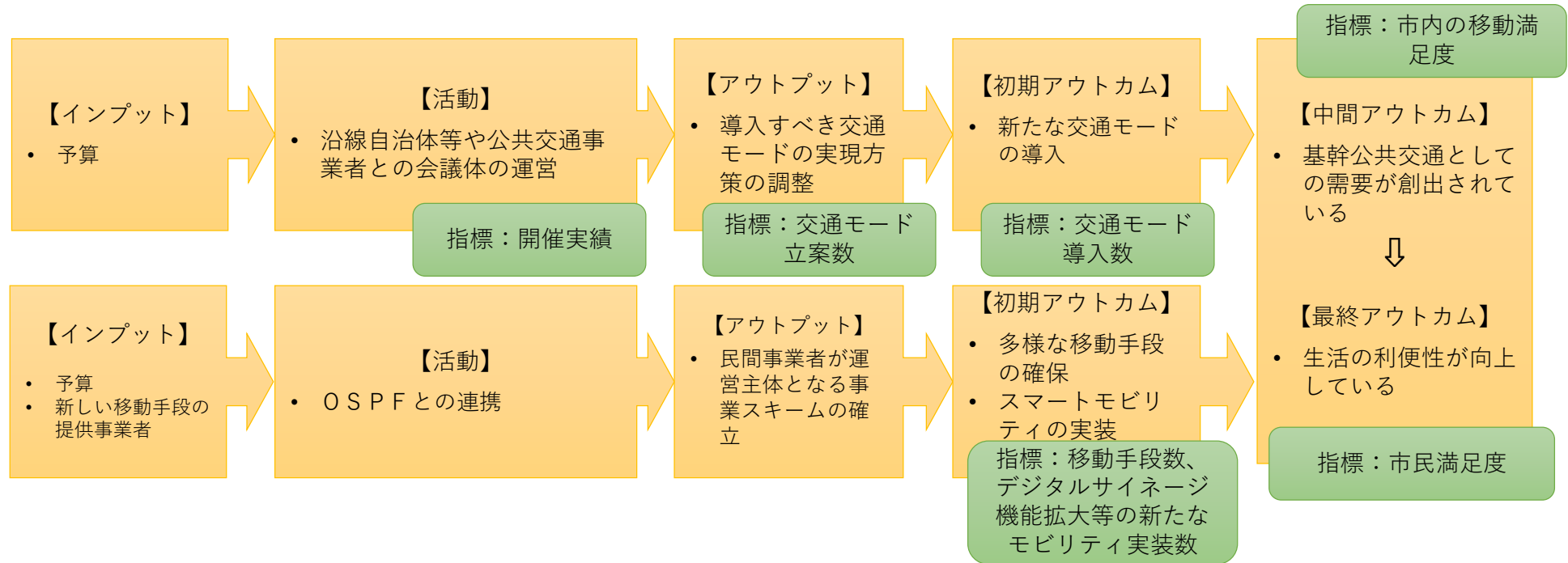
R 6 年度の事業費（内訳）
R 6 年度 6 3 千円 沿線自治体との協議調整を目的とした会議体の運営 など 会場借上費 4 3 千円 負担金 2 0 千円

R 6 年度以降の事業費（ランニング経費）
R 7 年度 4 0 千円 R 8 年度 4 0 千円 R 9 年度 6, 0 4 0 千円 R 1 0 年度 9 4 0 千円 引き続き泉山整備やまちづくりの進捗に合わせた需要創出が必要

取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
南海泉北線の延伸に向けた勉強会の開催 0件（2022）➡8件（2026）	※必ず縮小・廃止時期を記載すること 未定

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（泉北高速鉄道の延伸に向けた取組[①総合交通戦略事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【R6年度】重点目標の取組・評価シート①（泉北高速鉄道の延伸に向けた取組[①総合交通戦略事業]）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

一部
達成

- 山直東のまちびらきに合わせた新たな交通モードの導入、市内公共交通の再編、スマートモビリティ等の交通結節点機能の充実

■ R6年度において実施・実現できたこと

- 鉄道事業者を含む交通事業者との協議を実施

■ R6年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

一部
達成

R5～8年度

- 導入すべき交通モード（需要の創出に繋げるため、まちづくりに合わせて、スマートモビリティの実装を想定）やその実現方策について国、府、沿線自治体、公共交通事業者等と協議、調整
- スマートシティ「移動がスムーズなまちづくり」等の取組

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R6年度実績値
—	南海泉北線の延伸に向けた勉強会の開催回数	回	—	2	1

【R 6 年度】重点目標の取組・評価シート②（泉北高速鉄道の延伸に向けた取組[①総合交通戦略事業]）

■ R 6 年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 関係市との勉強会開催に至らなかった

■ 課題分析

- ・ 大阪府や関係者との協議を踏まえ進めていく必要がある。

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ 本市の取組のみでは実現できないため、アウトカムとしては現在のところ変更はなく、引き続きアウトカムの発現に資するよう活動していく。

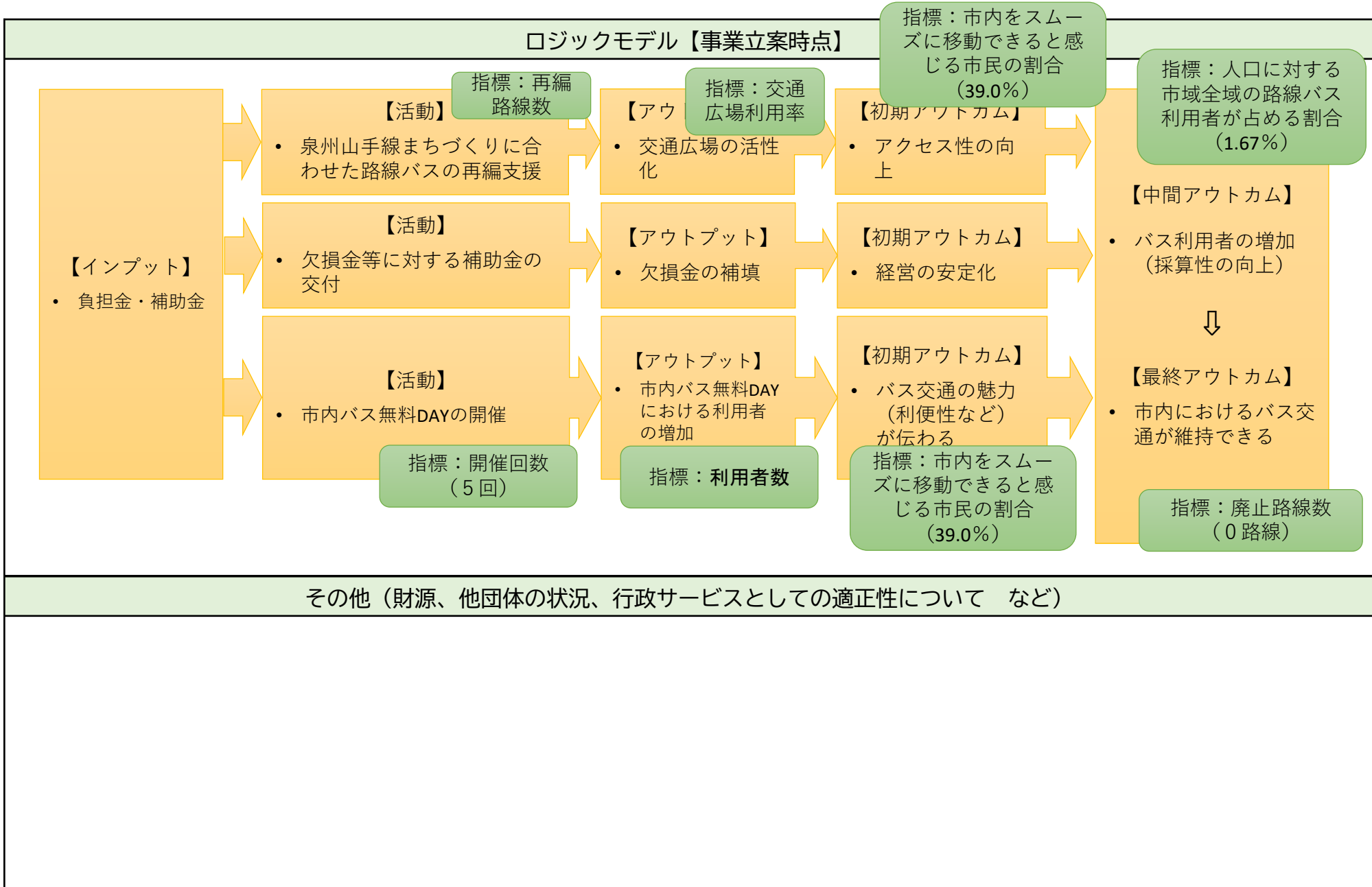
■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 泉州山手線の事業推進に伴い、関係市との勉強会や意見交換を活発にしていく。

【R 6 年度】重点目標の取組・概要（公共交通ネットワークの再編[②地域交通充実事業]）

担当課（内線）	交通政策担当（3 1 4 5）	個別目標の方向性	拠点とのアクセス性の向上を図る
重点目標	2 経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の特性に応じた最適な交通手段の検討・構築を進める
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）	
次期交通まちづくりアクションプランの達成目標とし、バス交通サービス、交通結節機能の充実等として、泉州山手線や拠点の形成に合わせた「公共交通ネットワークの再編」が必要である。		【中期的(4～5年後)にめざす成果】 - 泉州山手線の事業着手とまちづくりに合わせた路線バスの再編 ⇒交通広場の機能活用による市内のアクセス性向上 泉州山手線の事業着手とまちづくりに合わせた山手地区全体の基幹交通としての路線バスの再編であり、沿道のまちづくり全体に寄与する取り組みをめざします。 【成果に向けての各年度の進め方】 - 沿道自治会や、ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会等への利用促進の取り組みを継続（沿道自治会、学校等へのPR他、ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会（企業、自治会）の自主的な利用促進検討を促す取り組み） 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 - 上記内容に加え、市内路線バス無料デイを開催し、休日祝日の利用促進を図り、バス利用機会の創出を図る様	
R 6 年度の事業費（内訳）			
- バス運行補助金 56,132千円 （内訳）道の駅・愛彩ランド～和泉中央駅 新規路線バス実証運行 50,832千円 福田線の岸の丘町経由によるルート変更 5,300千円 - 市内路線バス無料DAYの開催 5,000千円			
R 6 年度以降の事業費（ランニング経費）		取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
R 7 年度 30,398千円 ※あくまでR 3 政策決定会議参考資料による		市内をスムーズに移動できていると感じている市民の割合 36.1%（2022）➡39.0%（2026）	※必ず縮小・廃止時期を記載すること 未定 目標利用者数の達成状況に応じた事業の見直し

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（公共交通ネットワークの再編[②地域交通充実事業]）



【R6年度】重点目標の取組・評価シート①（公共交通ネットワークの再編[②地域交通充実事業]）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

一部
達成

- 泉州山手線の事業着手とまちづくりに合わせた路線バスの再編
- 交通広場の機能活用による市内アクセス性向上

■ R6年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

おおむね
達成

- 沿道自治会や、ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会等と連携しバス停留所を増設
- 市内路線バス無料デイを開催し、休日祝日の利用促進を図る

■ 「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R6年度実績値
○	市内をスムーズに移動できると感じる市民の割合	%	36.1（2022）	39.0（2026）	38.3

■ R6年度において実施・実現できたこと

- 交通結節点となるゆめみヶ丘におけるモビリティポートの設置とシェアサイクルの実装を開始。山手の拠点と和泉中央駅にかけての移動ニーズに対応した取り組みを推進した。

【R 6 年度】重点目標の取組・評価シート②（公共交通ネットワークの再編[②地域交通充実事業]）

■ R 6 年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 施策の実施周知PR方法について、改善が必要

■ 課題分析

- ・ 更なる利用促進の検討が必要

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ 引き続き事業を推進し、アウトカムの発現に努める

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ バス待ち環境の向上など利用促進を図る

【R 6 年度】重点目標の取組・概要（交通弱者対策（地域バス）[③交通政策検討事業]）

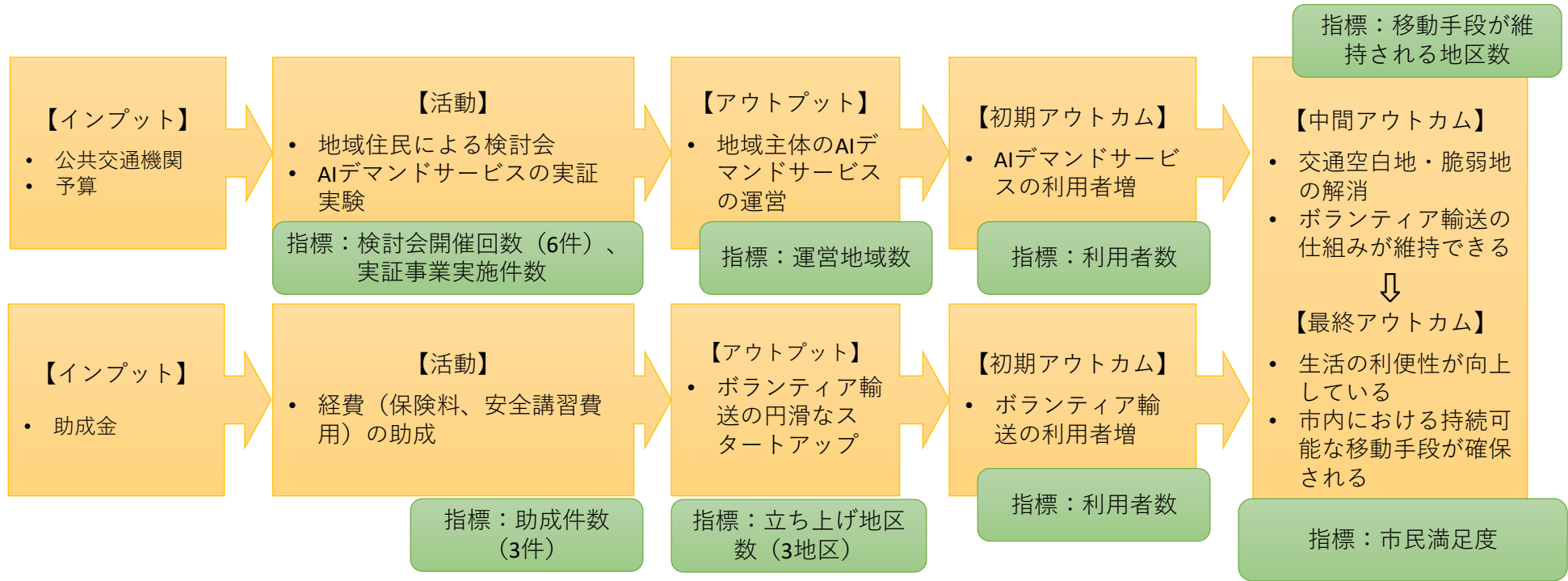
担当課（内線）	交通政策担当（3 1 4 5）	個別目標の方向性	拠点とのアクセス性の向上を図る
重点目標	2 経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の特性に応じた最適な交通手段の検討・構築を進める

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
次期交通アクションプランに位置付けられる市内6圏域内の交通脆弱地を対象（具体例としては、春木大芝地域、黄金塚等があるが、各圏域毎でそれぞれ地域にあった地域バスを個別に検討していく必要がある）とした地域バス導入の取り組みとして、交通弱者の足となるAIオンデマンド交通について導入検討が求められている。	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・次期交通アクションプランに位置付けられる市内6圏域内の交通空白地、脆弱地の一部で地域バスの導入が進められている 【成果に向けての各年度の進め方】 ・市内6圏域内の交通脆弱地にAIオンデマンド交通の導入にむけての勉強会及び実証実験について促していく。 ・実証実験を踏まえた導入検討を支援する 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・交通脆弱地を対象とした地域バス導入の取り組みを行い、市内の運営母体が発足した場合について、市は積極的にサポートを行っていく。 ・運営母体の設立促進のため、地域での勉強会の開催や地元主体の自立した持続的な運営にむけた実証実験及び初期導入の効果検証費用を負担するものとする。 ・ボランティア輸送についての支援体制の構築
R 6 年度の事業費（内訳）	
交通脆弱地を対象としたAIオンデマンド交通等実証実験費用 17,830千円	

R 5 年度以降の事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
地域主体となったデマンド交通導入後は、地元企業の協力等自立したスキームとし、なるべく行政負担のない方向での仕組みづくりをサポートする。	地域住民による地域の公共交通を考える検討会の開催実績 1件（2022）➡6件（2026） 交通空白地・脆弱地の解消件数（地域主体による協議会の設立実績） 0件（2022）➡増加（2026）	※必ず縮小・廃止時期を記載すること 圏域ごとのニーズ状況による

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（交通弱者対策（地域バス））[③交通政策検討事業]

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

【R6年度】重点目標の取組・評価シート①（交通弱者対策（地域バス）〔③交通政策検討事業〕）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 次期交通アクションプランに位置付けられる市内6圏域内の交通脆弱地の一部で地域バスの導入が進められている

■ R6年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- 市内6圏域内の交通脆弱地にAIオンデマンド交通の導入にむけての勉強会及び実証実験について促していく
- 実証実験を踏まえた導入検討を支援する

■ R6年度において実施・実現できたこと

- 交通不便な地域である春木大芝地区及び黄金塚地区において協議会発足し、実証運行を実施した
- 市内1地区でのボランティア輸送について運行継続

■ 「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R6年度実績値
○	地域住民による地域の公共交通を考える検討会の開催実績	回	1（2022）	6（2026）	7
○	交通脆弱地の解消件数（地域主体による協議会の設立実績）	件	0（2022）	増加（2026）	2

■ R 6 年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 実証運行の結果十分な利用に至らなかった

■ 課題分析

- ・ 地域の移動ニーズに合った交通モードの検討

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ 引き続き事業を推進し、アウトカムの発現に努める

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 春木大芝地区及び黄金塚地区等での生活交通本格導入

【R 6 年度】重点目標の取組・概要（スマートシティ「移動がスムーズなまちづくり」[④交通政策検討事業]

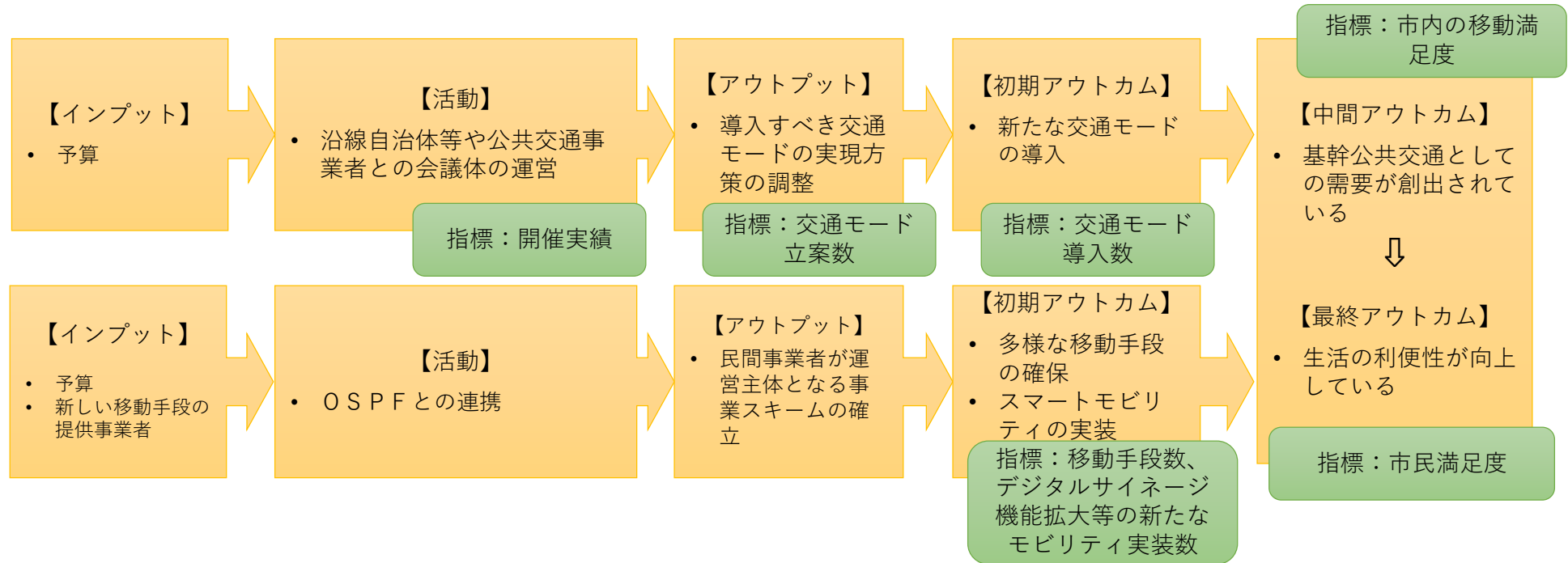
担当課（内線）	交通政策担当（3 1 4 5）	個別目標の方向性	拠点とのアクセス性の向上を図る
重点目標	2 経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	地域の特性に応じた最適な交通手段の検討・構築を進める

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
R 2 年度に O S P F に参加。R 3 年度より「移動がスムーズなまちづくり」に着手。位置情報データを用いた人流分析の結果、泉州地域丘陵部における市域を跨いだ移動を確認。今後はスマートモビリティの実装に向けて民間事業者が運営主体となる事業スキームの確立が必要。	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・泉州山手線の事業着手と山手のまちづくりに合わせた「移動がスムーズなまちづくり」の取り組みとして、昨年度実証実験を行った道の駅愛彩ランド、府営蜻蛉池公園、今後まちづくりが進みつつある泉州山手線沿道の山直市民センターといった3つの拠点におけるスマートモビリティの実装を行う。山手地域全体のにぎわいづくりの取り組みであり、道の駅愛彩ランドでは、日常利用、観光周遊として、府営蜻蛉池公園では、園内周辺等散策・山手の周遊、市民センターでは市内の足としてそれぞれ特徴のある結果が出た。 今後は拠点ごとでの状況に合わせた実装に向けた取り組みに活かす。 【成果に向けての各年度の進め方】 ・運営主体が利用料や広告料などの収入などによりマネタイズを確保することを前提とし、市はイニシャル等の初期費用負担を行う。 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・R 5 設置のデジタルサイネージの機能拡大や周辺地域への拡大 ・新たなモビリティ・交通モードの導入に向けた検討・実証
R 6 年度の事業費（内訳）	
O S P F の取組と連携したスマートモビリティ推進業務 18,000千円	

R 6 年度以降の事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
未定	市内をスムーズに移動できていると感じている市民の割合 36.1%（2022）→39.0%（2026）	※必ず縮小・廃止時期を記載すること 未定

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル（スマートシティ「移動がスムーズなまちづくり」〔④交通政策検討事業〕）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

一部
達成

- ・ 実証実験を行った道の駅愛彩ランド、府営蜻蛉池公園、今後まちづくりが進みつつある泉州山手線沿道の山直市民センターといった3つの拠点におけるスマートモビリティの実装を行う。

■ R 6 年度において実施・実現できたこと

- ・ 交通結節点となる愛彩ランドにて自動運転バスの実証運行を実施。山手の拠点における移動がスムーズなまちづくりの実現に向けて取組を推進した。

■ R 6 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）

一部
達成

- ・ デジタルサイネージ等民間のシステム導入との連携（M a a S の取組）

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 6 年度実績値
○	市内をスムーズに移動できていると感じている市民の割合	%	36.1（2022）	39.0（2026）	38.3

■ R 6 年度において実施・実現できなかったこと

- ・ シェアサイクル事業についてポートの複数設置に至らなかった

■ 課題分析

- ・ 民間事業者との連携

■ ロジックモデルの振り返り

- ・ 引き続き事業を推進し、アウトカムの発現に努める

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 山手の交通ネットワークの再編を見据えた自動運転実証運行を実施
- ・ 民間事業者主導によるシェアサイクルポートの拡大